

**令和 8 年度第 2 回四国中央市部活動地域展開検討委員会
会議録**

1. 会議名	令和 8 年度第 2 回四国中央市部活動地域展開検討委員会
2. 日 時	令和 8 年 10 月 8 日（木）19:00～20:00
3. 場 所	伊予三島運動公園体育館 大会議室
4. 出席者	委 員：12 名 藤田恭二、近藤泰久、井川方典、高橋信行、石川幸雄、近藤和明、 石川典英、守屋智彦、神野茂、合田義教、宇高義和、脇展子 教育委員会：2 名 教育長 河村 英茂 教育部長 岡崎 学 地域振興部：1 名 地域振興部長 合田 晃友 事 務 局：7 名 学校教育課長 篠原 雅代 外 2 名 まちおこし課長 堤 哲良 外 3 名
5. 傍聴者	一般 0 名 報道関係者 0 名
6. 会議の公開	公開
【会議内容】	
1. 開会	
2. 開会のあいさつ	委員長 藤田恭二
3. 議事	
(1) 今後の予定について	・ モデル事業の実施について ・ 小中学生、保護者アンケートについて 事務局より説明
(委員長)	質問はないか。
(委員)	来年度に向けたスケジュールについては理解できた。地域の子どもを受け入れる体制づくりとして、地域展開を進めるにあたっては、地域のスポーツ団体、スポーツ少年団等との連携が必要であると思う。現時点でそういった団体等と、意見交換や方向性を共有していく予定はあるか。
(事務局)	今年度から来年度にかけては、まずモデル事業をメインに考えている。今の部活動が地域に

展開していく中で、こういった形がベターなのか検討が必要である。指導者に関しても、当初は教員の方にある程度の負担をかけていくようになるかと思う。ただ、最終的な地域展開の目標としては、民間の指導者やスポーツ団体の方をお願いをするようになると思うので、具体的な内容については、9年度のモデル事業を進めながら、受け皿のことについても力を入れていけたらと考えている。今後、担当者サイドでスポーツ協会と事前の協議を進めていきたいと考えている。

(委員)

地域の団体との橋渡しをスポーツ協会のほうでも行いたいと思う。

(委員長)

受け皿の情報はスポーツ協会がたくさん持っているので利用するとよい。

(委員)

モデル事業の地域クラブとして「すでに先行して活動している地域クラブ」とあるが、具体的にどういうことか。

(事務局)

部活動から移行されたというところでいけば、四国中央ベースボールクラブがそれに当たるのではないかと思います。

(委員)

その場合、その指導者は平日も子供たちの指導に当たっているが、休日に関する報酬しか手当されないということか。

(事務局)

今回のモデル事業では、休日の指導者報酬は、教員か一般の方かは別にして、例えば休日の午前中3時間の指導に対しての報酬という形で、平日は全く入っていない。一方の部活動指導員の方は、一般の方が現在の部活動に指導に入ると、身分的には市の会計年度任用職員という形で、平日のみの1日2時間程度の報酬を見るという形になる。

(委員)

関連して、例えば四国中央ベースボールクラブについて、平日は部活動として行うということになるのか。

(事務局)

そうではない。例えば同じ先生が、平日は部活動の顧問、休日は地域クラブの指導者、という形で、平日の部活動の指導については部活の範囲内ということで指導していただいて、休日については部活動以外の地域クラブとして、別枠で報酬を得るという形になる。

(事務局)

地域展開を進めようという取り組みの1つとして、まずは、休日の地域展開から進めようという流れの中の、補助金を利用したこのモデル事業である。現在、苦勞されている団体も活用できるのであればという思いである。

(委員)

四国中央ベースボールクラブについてはどういう扱いになるのか。

(事務局)

まず部活動を母体としてというのは、四国中央ベースボールクラブのように、以前は部活動であったけれども、諸々の事情で、現在は地域クラブになっているというのが部活動由来の地

域クラブ（部活動移行型地域クラブ）である。全く部活動とは関係ないところでできている地域のクラブ活動（地域立ち上げ型地域クラブ）は、今回モデルとしては入らないということになる。

（委員長）

いずれにしても、事務局としては、事業として最大4チームを、今後選んでいくということである。

（事務局）

事務局だけで選ぶわけではなく、例えば5団体以上の希望があれば、次回の検討委員会で、どのチームにモデル事業をやっていただくかを委員の方に検討いただく形になることもある。

（委員長）

委員の方々も、いろんなパターン、いろんなケースがあって四国中央ベースボールクラブのような形もあれば、事務局が言ったように、競技団体が発展していく中でいろんなケースについて協議していくということである。

（委員）

種目性がある、今部活動で活動している人数は種目によっていろいろ違っている。この4つのチームに選ばれたら予算はつくけれど、どうしても今進めようとしているこの取り組みに乗っかって早く動かないといけない競技もある。というのは、例えばバレーボールでは現在協会と中体連の二重登録が可能だが、それがだめだといううわさが一時流れた。ただ、全国からの反対を受けて、二重登録が今後も継続されることになったのだが、クラブの方はもうクラブとしてやっていきたいので、生徒にどちらかに所属をはっきりせよと迫る事態となっている。生徒には、2つに入って活動する権利は与えられているけれども、クラブが、選手の引き抜きにかかっている状況がある。いざ地域展開をやろうとしたときには、部活動がなくなっているのではないかと心配している。

4つのチームが選ばれる予算であるが、どうしてもクラブ化しなければいけないとなった時、もう予算はないのか。

（事務局）

あくまでも来年度はモデル事業という形である。例えば認定地域クラブの制度を確立させて市が認定するということになる、すべてのクラブチームに補助金を交付していくことになる。しかし、予算には限りがあるので、今めどがつく予算の範囲内で、来年度は最大で4つのクラブチームを支援して、その様子を、他の競技団体、種目、部活動の顧問の先生も含めて見ていただいて、地域展開にどういう形をとっていくことがベターなのかを検討していただくための試験的な取り組みである。それぞれ競技団体に事情があるのは承知しているが、一気にすべてに補助を出していくというのは難しいのでご理解をいただきたい。

（委員長）

委員が言うのは、競技団体によっては、一気に走ってしまっている団体があるかと思えば、待ったなしで動いている団体もあるということか。

（委員）

いま動かないと、この取り組みをいざしようとしてもその時にはなかなかうまくいかないのではない、待ったなしの状況であって、中体連で参加するバレーボール選手がかなり少なくなってしまうのではないかと危惧している。クラブ一本でいくと考えているクラブに生徒が流

れていってしまうとそうなる。クラブとの二重登録が可能なので、中体連の方にも登録してくれるとありがたいけれども、クラブの運営上の考え、監督・指導者の考えもあって、そこをコントロールするのは難しい。C-Baseはありがたいと思っている。

(委員長)

事務局としては、いろんなケースがあるということを知っていただいて、現実的にはそんな中で進めていかなければならない。

(委員)

モデル事業で、とりあえずこういうふうにやってみるという方法はいいと思う。例えば、松山市でも、組織を立ち上げてモデル事業を県内では一番先にやっていた。今回の検討委員会のテーマは「ずっと続く、もっと輝く、地域の部活動」であり、持続可能性、ずっと続くことが大事だとなると、安定した組織が必要で、前回お話した、中間組織を立ち上げるやり方がよいのではないかと考える。例えば地域クラブの活動がちゃんとルールが守られているか、いろんなことが回っているのかを、誰がチェックするのか。中間組織が間に立って運営できるというのは、先進地の事例を聞いて大事だと思った。この事業もそうだが、結局、土日だけでなく、平日も最終的に目指すのであれば、そういうことも含めてうちの市はどういうスタイルでできるのかを、受け入れ側の人たちに、受け入れの可能性について意見を聞くということが大事である。教職員に2年ぐらい前にアンケートをとり、今回は小中学生・保護者ということだが、受け入れる方、指導者が一番問題である。お金も必要だが、人がいないとできない。だから、スポーツ少年団や、スポーツ協会に限らず、そういうところに、この件を伝える必要がある。地域展開については、何とかしたいけれど受け入れについてどうだろうかという説明をして、駄目でも一応意見を聞くことが必要である。そうしたらその人たちは、うちの市も検討したけれど無理だったと理解してくれて、次について考えてくれるかもしれない。

(事務局)

今回のモデル事業については、国の方針が出て以降、市から、市民の方や学校、それぞれに十分な周知、情報発信ができてなかった部分があると思う。そういうこともあって、特に中学校の現場から四国中央市はどうなっていくのかという声を耳にするが、そこをまず知っていただく。そのあと、段階的に受け皿づくりであったり、中間組織の確立であったりというところに踏み込んでいけたらと考えている。

(委員長)

説明のあったモデル事業及び、アンケートの事務局案について、承認いただける委員は挙手を。

挙手多数

(委員長)

承認いただいた。それでは事務局の方で、今後進めていただきたい。よろしくお願いします。

(2)「四国中央市部活動地域展開推進計画」(仮称)の策定について

(委員長)

それでは次に、四国中央市部活動地域展開推進計画(仮称)の策定について、説明をお願いします。

事務局より説明(事務局)

(委員長)。

事務局から推進計画（案）についての説明があった。質問などはないか。

(委員)

中体連の全国大会にはクラブチームは出られないのか。

(事務局)

いえ、ご説明したようにクラブチームと部活動しか出られなくて、部活動で出ようとする、単独、合同チームと拠点校の3形態しか出られないということである。前回説明した市独自の形態である C・Base では出られないという県中学校体育連盟の見解であった。

(委員)

認定地域クラブというものについては、各市町で決めることになる。この、認定条件がどういふものなのかを、早めに決める必要がある、例えばモデル事業もそれに当てはまるような活動を目指す方がいいだろう。また、他の団体等に呼びかける場合も、認定されるのはこのようなクラブであるというのを示す必要がある。たちまちクラブの活動時間が長すぎて認定されないとすると、これを見直さなければならなくなる。認定条件についてどうあるべきかを、この検討委員会や事務局で検討する中で、早くその姿があったほうがよい。

(事務局)

推進計画がないと認定制度も議論できないので、推進計画策定後、認定制度を整備するのが本来の形だと思う。しかし、委員が言われたように、それでは遅いので、事務局としては同時成立を目指したいと考えている。認定条件は国からも案が示されていて、それは最低条件ぐらいの取り扱いであるので、そこから大きく外れるということはないと考えている。行政としては、決まっていないことを発信することは難しいが、委員からは、国の認定要件と同じようになるのではないかという説明をしていただけたらと思う。

(委員)

スポーツ協会事務局として、情報提供をしたいと思う。現状について、少し考えていただく必要があると思う。例えば、軟式野球のスポーツ少年団は12年前の平成26年頃は、市内17チームあった。今、現状は6チームである。たった12年で3分の1になってしまっている。想像を超えるスピードでチームがなくなっている。受け皿の候補の一つにスポーツ少年団がなくなっているが、地域には余裕がない状況だということを感じてもらえたらと思う。チームがなくなるといふのは、人数が減るだけではなく、指導者や活動場所がなくなること、子供たちの繋がりであるとかスポーツへの入口の部分がなくなってしまうことでもある。なくなったチームを元に戻すのは難しいので、できるだけスピード感を持って取り組まないといけない。受け入れるにも準備期間が必要になってくるので、今の段階からでも、地域の団体と一緒に考えていったほうがいいのではないかと感じている。

(委員長)

それでは、多数の意見をいただいたので、部活動地域展開推進計画案について賛成であれば挙手をお願いします。

挙手多数

(委員長)

承認いただいたので、事務局は準備いただけたらと思う。よろしくお願いします。

議事はこれですべて終了した。

4. 意見交換

(委員長)

意見交換ということで、意見のある方お願いします。

(委員)

運動部活動については、たくさん議論があって進んでいくのかなと感じているが、本校でも、文化部に多くの生徒が所属している。文化部も、今後どういうふうに活動していけばよいのかも同時に詰めていかないといけないと考える。

(事務局)

事務局としても、文化部についても一緒に考えていく必要があると考えている。休日に部活動を行っている文化部は、吹奏楽部と1つだけある演劇部だけである。まずは休日の地域展開からというところで、後回しにするつもりはないが、平日の活動が中心の文化部についてはその次の段階を見据えてとなる。

また、吹奏楽部については、他市町も相当に苦勞していて、事務局としても難しい問題だと認識している。皆さんのお知恵も借りながら考えていきたい。貴重なご意見ありがたい。

(委員長)

他に何かご意見はないか。

議事の方も承認いただいた。また意見等あればご連絡いただいてお聞かせいただきたい。よろしくお願いします。以上をもって意見交換を終了する。

5. 事務連絡

事務局より次回の予定について連絡

6. 閉会あいさつ

四国中央市教育委員会教育長 河村英茂

7. 閉会